



「収穫したものは全て無駄にしない」
 ふくしまならではの果物づくりを目指して

福島県福島市
有限会社 あづま果樹園

JGAP認証取得
 さくらんぼ、日本なし、ぶどう、もも、りんご



あづま果樹園では、もも、ぶどう、さくらんぼ、なし、りんごといった人気の果物を育てています。これは福島市が盆地で夏は暑くて、冬は寒いといった土地柄が気候的にも恵まれており、果物が美味しく育ちやすいからだそうです。福島県ではりんご、もも、なしなどいくつかの果物を育てている農家さんが多いようです。

果物は種類によって手入れの方法が異なるので、適時期に適時作業を行う為に農園の皆さんで協力をして作業をしています。福島県は、一つ一つの産物は生産量1位ではないかもしれないけれど、果物それぞれの特徴があり、品質の良いものがたくさんあります。そういったものをご自身の手で丁寧に販売しているそうで、現在は店頭が中心ですが今後はネット販売も再開して全国の方へ届けたい、と吾妻さん。

吾妻さんは、「一生懸命、手塩にかけて果物を作り、収穫したものは全て無駄にしない」ということを大切にしているそうです。少し傷んだものやキズがあるものも、加工して新たな付加価値をつけてロスなくしていき、できた果実を使い切っていきたい、と話してくれました。



多くの果物の産地として“果物王国”とも呼ばれる福島には「フルーツライン」と呼ばれる道路が福島市の西側、吾妻連峰の麓を走っています。あづま果樹園はこの道路沿いに位置し、「フルーツライン」命名のころから代々続く農家さんです。お父様の代で観光に特化した農園になったそうですが、現在もたくさんの方々果物狩りに訪れています。吾妻さんが後を継いだのは23年前。福島県の果樹試験場で、果樹について学んだことで、農業を職業として捉えるという新たな視点を持つきっかけとなり、農業に取り組みはじめたそうです。



<https://www.muji.com/jp/ja/store/cmdty/section/T50001>



あづま果樹園
<https://gap-fukushima.jp/user/p210029/>

